

## 「環境保全プロジェクト」

先輩方と興居島島民との“つながり”がこの活動の原点です。  
島民の声からこの清掃活動が始まりました。

これまで清掃活動を実施したのは、

興居島 釣島 二神島 野忽那島 睦月島 中島 津和地島

これまで海岸状況調査で訪問したのは、

怒和島 安居島

忽那諸島のすべての島を訪問し、島の現状を知りました。  
島の方の声が、島の課題を考えるきっかけになりました。

これまで拾ってきたごみは、  
ペットボトル 発泡スチロール プラスチック  
牡蠣棒 瓶 缶 蛍光灯・電球 etc.

1回の清掃は、  
約20～30人 3時間～1日 ごみ袋80袋分の回収

島民や関係機関との連携 イベントでの地域への啓発  
子どもたちとの楽しみながらの環境学習

「拾う活動」「減らす活動」を柱に  
忽那諸島全体の環境保全に取り組んでいます！



## 「継続的な活動から見えたもの」



この写真は、興居島の国木海岸を定期的に観察したものです。興居島の海岸の中で、最も海ごみが集まりやすい海岸です。この海岸を継続的に清掃していく中でごみがたまる周期に再現性があることが分かってきました。回収量指数とは、ごみの回収量を人数と時間で割って1時間に1人が回収したごみ袋の平均を表したものです。春はごみが比較的少なく、夏にかけて多くなり、台風を挟んだ冬はより多くなることが分かります。この点は私たちが現在行っている冬・春・夏の清掃周期がベストであることがうかがえます。よって、今後もこの周期で清掃を行っていく必要があります。

2022年				
日付	3/12	7/17	9/	12/21
回収量指数	0.56	0.96	—	1.85
2023年				
日付	3/11	6/15	9/10	12/26
回収量指数	0.62	1.16	0.72	1.33

## 「日本一海ごみを拾う高校生」

2020年度 12回 817袋  
2021年度 13回 1117袋  
2022年度 10回 653袋  
2023年度 15回 1204袋

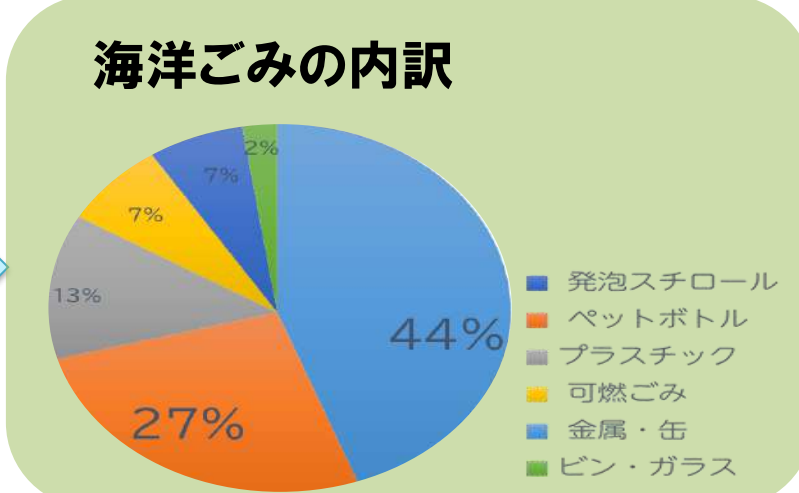
私たちは5年間で35回の海岸清掃を実施し、45Lごみ袋で約3700袋を回収してきました。重量にすると170トンと非常に大きな数になります。この数字は私たちが日本一海ごみを拾っていると自負できる由縁です。

私たちのフィールドは忽那諸島です。忽那諸島は、愛媛県松山市に属し、人口4000人ほど、みかんなどの柑橘類の栽培が盛んな小さな島々です。ですが、10年で人口が25%減少し、ほとんどの島民が60歳以上の高齢者という深刻な少子高齢化状態です。このような状況にもかかわらず私たちが活動を始めるまで、忽那諸島で清掃活動を行う団体はおらず、高齢の島民が細々と清掃をするのみであったため海岸にはごみがあふれていました。

活動の際には船での移動が必須のため、「愛媛県三浦保愛基金」を活用しています。活動時期も限られるため、時期や海岸状況調査を通して清掃場所を決定し、より効果的で継続性のある活動を実施しています。コロナ禍でも島民との連絡を密にし、時に炎天下の砂浜や藪の中、テトラポットの隙間など、忽那諸島の海岸のいたるところで海岸清掃をしてきました。

私たちが活動で拾うものはペットボトルや発泡スチロール、ビンカンなどの日常生活で排出されるものが多いです。ですがそれら以上に排出されているものがかき棒です。かき棒は広島県産のかきの養殖に使われています。瀬戸内海を通して多くのかき棒が忽那諸島に流れてきているのです。

清掃回数 50回  
累計ごみ袋数 3771袋  
参加者数 1109人  
回収ごみ総重量 170トン



全体の7割が発泡スチロール、ペットボトルといったプラスチック製品

## ▶海洋ごみの問題をもっと知ってもらうために

海洋ごみの問題は、ただ拾うだけで解決するものではありません。海ごみの8割以上は都市部から流出したごみです。

そこで、私たちはさまざまなイベントに参加しています。多くの世代の方に地元松山の島のごみの現状を知ってもらい、そのごみが私たちの生活によって発生していることに気づき、海ごみ問題について傍観者ではないと感じていただくことで海ごみの流出を防いでいく活動を行っています。その対象は、一般市民であったり、同じ高校生や海洋ごみにかかわりの深い島民の方、若い小学生に至るまで様々な人にわたっています。

## ▶協力企業・組織

私たちの活動は多くの企業・団体の協力を得て活動しています。活動の際にはごみ袋の提供や各種イベントの支援などを松山市。大型で産業廃棄物に区分される海ごみの処分のために城東開発（株）離島での活動であるため渡船会社である、ごしま（株）中島汽船（株）に移動とごみの島からの搬出のためにご協力いただいています。また、活動費の支援を愛媛県三浦保愛基金にいただいています。

## ▶継続した活動によって

地元メディアの取材や愛媛県からこれまでの活動を評価していただき「愛媛県海岸漂流物対策推進団体」への指定を受け、「三浦保環境賞」愛媛県知事賞を受賞しました。また、日本財団より海の応援隊の拝命を受けました。課題の解決や魅力の発信に取り組むことで、主催者としての自覚や将来について考えるよい機会も得られていると感じています。

## 三浦保発表会

市民に

サマーエコキッズスクール

小学生に

## 高校生環境フォーラム

高校生に

興居島ワークショップ

島民に

## 渡島・ごみの搬出

（株式会社ごしま）

NAKAJIMA

（中島汽船株式会社）

## 活動補助金

（松山市）

（松山市）

## 清掃・啓発活動全般

松山市

清掃課

環境セアール市推進課

## 産業廃棄物処分

JOTO

（城東開発株式会社）



えひめ海の応援隊拝命



「三浦保環境賞」愛媛県奨励賞受賞

離島（瀬戸内海）の海ごみの約9割は本土から流出したもの。誰かが川や海に捨てたペットボトルは分解されず、美しい島を壊し続けています。

## 「継続と実効性」



産官学民連携

## 【持続性】

上記に書いた通り私たちは4年間で多くの海岸清掃を行ってきました。しかし、私たちがいくら拾っても海ごみは流れてきます。海ごみゼロの海岸を目指すためには継続的な海岸清掃が必須です。そのためには、引き続き、これからも粘り強く清掃、調査を行っていきます。

## 【展望】

これから私たちが主動となって一般の方や小中学生を巻き込んでより地域に密着した活動にしていきたいです。また、行政や企業と一緒に海ごみ問題について考え、取り組み、高校生ならではの活動や高校生だけではできない活動など、より活動の幅を広げ海ごみ問題の解決につなげていきたいです。

## 【課題】

回収したごみは、松山市清掃課に処分を依頼しています。しかし、袋に入らないごみや産業廃棄物は処分できていませんでした。ほおっておくと大量のマイクロプラスチックになる発泡スチロールフロートも処分できないため、再び海に流れないように少し移動させて固定することしかできませんでした。この課題を解決するため、令和4年度から（株）城東開発に回収を委託しました。5回の処分を実施しましたが、処分料を合計すると35万円ほどになり、ごみの処分には多くの費用が掛かることを痛感しました。ただ、まったく回収しないのは海ごみを増やす原因になってしまいます。（株）城東開発や島の人と連携して、計画的に実施していくことがこれからの課題です。

## 集合写真



## 私たちのあゆみ

平成28年 興居島での「主権者教育」開始  
平成30年 NPO団体を設立  
令和2年 愛媛県三浦保愛基金の活用開始  
エンシカル甲子園2020（奨励賞）  
令和3年 忽那諸島へ活動拡大  
令和4年 「愛媛県海岸漂流物活動推進団体」認定  
きらめき松山市民賞受賞  
三浦保環境賞（愛媛県知事賞）  
令和5年 えひめ海の応援隊拝命

海岸清掃だけでなく愛媛県内外の環境保全に関わるイベントでの啓発活動や島での行事のお手伝いなどを行っています。